



子どもも親も一人にしない子育て

スタート集会のお知らせ ●
9 月議会報告 ●



子ども・若者・高齢者の居場所を増やそう！

3 年前、娘の卒園式の 5 日前に地震と原発事故が起きました。色々な不安の中で一番大きかったのは子どもへの放射能の影響です。特に小学校に入っ
て子どもが毎日口にする給食が安全かどうかは、親にと
って切実な問題でした。何から始めたら良いのか分
からないままに、とにかく議会に陳情を出してみよ
うと思い立ち、周囲に声をかけて署名活動を始め
ました。数人から始まった「学校給食の安全を求め
る陳情」は最終的に 1500 人の方が署名してくだ
さるに至り、狛江市議会で採択されました。

思いを声に出したことで、同じ思いの理解者とつ
ながり、それが議会まで届いて、市民の期待に応え
た決定がされるということを経験しました。この時、
共に活動し、議会への働きかけを支えてくれたの
が狛江・生活者ネットワークです。それまで政治は
遠くにあると思っていましたがそうではなく、私
たち市民の身近な、こうありたいという希望を形に
するためにあるのだと知った瞬間でした。

以前の私がそうだったように、生活のなかに不
都合や不安があっても、声には出さずひとりで抱
えている市民は少なくありません。子どもや青年、
高齢者が気持ちを言葉に出すことは難しく、女性
は子育てや介護といった現実を引き受けて生活し
ています。だからこそ市民の声を聞き取り、市民の
道具となって、行政に届ける代理人としての役割
が重要となってきます。

今後、市民感覚を活かし活動していきます。「子
ども・若者・高齢者の居場所を増やそう」をキャ
ッチフレーズに、誰もが安心して狛江でずっと暮
らしたいと思えるまちづくりのために、そして身
近な地域で私たち市民が望む未来像を描き、その
実現に向けて力を合わせ、その声が身近な政治の
場に届くよう取り組んでまいります。

狛江・生活者ネットワーク政策委員 山本あき子

山本あき子のプロフィール

1961 年 港区青山生まれ 1966 年 父の仕事の関係でパーミンガムへ
カリタス小学校 西生田中学校 和光高校卒業
1981 年 桐朋学園芸術短大、演劇専攻卒業
1988 年 生活クラブ生協加入 石けん運動と出会う
1994 年 大原簿記学校勤務
1997 年 ケンブリッジ ニューナムランゲージセンターに学ぶ
1998 年～気持ちを言葉にするメソッド「シナリオリーディング」で活動
2010 年 染地幼稚園 PTA 副会長
2011 年～フリースクール コピエにてシナリオリーディングのボランティア
活動
2011 年 原発とめて！いのちがけいじ in 狛江メンバー
「ミツバチの羽音と地球の回転」を上映
「狛江の子どもを放射能から守る保護者の会」代表
「狛江市立小中学校・保育園給食の放射能対策を求める陳情」を市
議会に提出、採択される
2014 年 狛江・生活者ネットワーク 政策委員
■趣味 韓流ドラマ、K-pop ■ペット 猫
■家族 夫、娘、義母 ■狛江市中和泉4丁目在住

●インフォメーション●

Yamamoto & Yoshino ワイワイスタート集会

日時：2015 年 2 月 21 日（土）
14:00～16:00

会場：泉の森会館3階ホール

講演：福嶋浩彦さん（元我孫子市長、中央学院大学
教授）

高度成長、バブルがはじけ我が
国が脱成長時代を迎えて久しく、
さらにこれからは人口減少社会に
向かいます。今私たちがどうい
う社会にしたいのかが問われていま
す。平均的な所得の半分を下回る
世帯で暮らす 18 歳未満の子ども
の割合を示す「子どもの貧困率」
が、2012 年に 16・3%と過
去最悪を更新しました。生きづ
らさを抱える若者も増えていま
す。

狛江・生活者ネットワークは子
どもたち一人ひとりが大事にされ
幸せで豊かに生きられる社会を
め
吉野* 来年の統一地方選挙に向
けて二人で挑戦できることになり
本
当に嬉しいです。私はこの 7 年
不登校や学校に行きにくい子ど
もたちの学びの保障や障がいがあ
っても地域で共に生きていくた
めの提案を当事者や親たちととも
に続けてきました。

山本* 私は子どもに向けてシナ
リオリーディングの活動を行って
います。子どもたちは大人社会の
価値観を押し付けられて言いた
いことを呑み込んでいくことが多
いのだと思います。役柄になりき
ると子どもたちは心の深層にある
閉塞感や疎外感、希望を言語化
でき
吉野* 一昔前と違い子どもの育
ちに変化していません。遊ぶ空間
も仲間も時間はるかに少なくなり
、バ
ーチャルな世界に没入しがちで
す。だからこそ私は子どもたちが
自分の頭で考え、自由に思いっ
きり遊びができるプレパークの
ような活動が大事だと思っています。
山本* 私の娘もプレパークが大
好きです。仲間と創造する遊びは

もちろんのこと、できないことに
挑戦する喜びも覚えたようです。
見ず知らずの子どもとも友だち
になれるようになりました「遊び」
を通して子どもが育っているこ
とを実感しています。
吉野* プレパークにはいろいろ
な可能性がありますね。子ども
だけでなく子育て中の親、地域
の人たち、おばあちゃん、おじ
いちゃん世代の人たちも参加し
、つなが
っていく安心できる地域の居
場所
■子ども・若者・高齢者の居場所
を増やします
山本* 今狛江でも地域包括ケア
システムの構築が議論されていま
す。が、プレパークのような安心
できる人間関係が築かれ、おた
がい
さまや見守りができる地域づく
りが町中に広がっていくことで
孤立する人を作らずに誰もが生き
やすくなるのではないかと
思います。
吉野* イスラム国への渡航を企
て

た学生が話題になりました
が、未来に希望が持てない若者
を生み出すことは社会にとつても
不幸です。子ども・若者が安心
して自分らしく生きていくこと
のできる地域づくりから始める
ことが大事で大人の責任だと思
います。
山本* それには人を「つなぎ」
ながら「ための空間の力が見逃
せないですね。
吉野* 11 月から狛江団地の空
き店舗を活用し高齢者の相談
拠点として「こまほつとシルバ
ー相談室」がオープンしました。
相談する場ややりたい活動が
できる場が子ども・若者にも不
可欠です。閉所となる根川学童
を中高生センターに転用する
ことを提案しました。
山本* 子ども・若者の声を聞き
ながら公共施設の複合的な利用
や空き店舗などの活用で「こう
いう未来の地域像」をめざして
市民の皆さんと力を合わせて居
場所の実現に取り組んでいき
たいです。



今こそ市民の出番です！
市議会議員 吉野よしこ(右)
政策委員 山本あき子(左)

子どもも親も一人にしない子育てをすすめます
二人の擁立を決定！

狛江・生活者ネットワークは来
年 2015 年 4 月に予定されて
いる統一地方選挙に向けて現
市議会議員 吉野よしこと政策
委員 山本あき子の擁立を決
定しました。

さします。それは取りも直さず
人にとつても幸せな社会です。
吉野よしこ 山本あき子の対
談を通して子どもの幸せにつ
いて一緒に考えたいと思いま
す。

■子どもを取り巻く状況

吉野* 来年の統一地方選挙に向
けて二人で挑戦できることになり
本
当に嬉しいです。私はこの 7 年
不登校や学校に行きにくい子ど
もたちの学びの保障や障がいがあ
っても地域で共に生きていくた
めの提案を当事者や親たちととも
に続けてきました。



今こそ市民の出番です！
市議会議員 吉野よしこ(右)
政策委員 山本あき子(左)

きようになります。子ども自身
が自己決定する機会を大事にし
たいです。

もちろんのこと、できないことに
挑戦する喜びも覚えたようです。
見ず知らずの子どもとも友だち
になれるようになりました「遊び」
を通して子どもが育っているこ
とを実感しています。

た学生が話題になりました
が、未来に希望が持てない若者
を生み出すことは社会にとつても
不幸です。子ども・若者が安心
して自分らしく生きていくこと
のできる地域づくりから始める
ことが大事で大人の責任だと思
います。
山本* それには人を「つなぎ」
ながら「ための空間の力が見逃
せないですね。

吉野芳子の一般質問

吉野芳子の 9月議会報告



狛江市議会議員吉野芳子
<http://yoshino.seikatsusha.net>

■9月議会は9月2日から10月7日まで開かれました。また13年度決算を認定しました。

■議会改革が少し前進しました
今年9月議会から議会の様子をインターネット中継しています。遅きに失しましたが来年3月の第1回定例会から市民の陳情を契機に予算・決算審議を全議員の参加

で実施することになりました。

■「手話言語法制定を求める意見書の提出を求める陳情」を採択

手話が音声言語と対等な言語（日本語）であることを広く国民に広め、あらゆる場面で手話による情報の提供・獲得ができるよう環境整備するために早期に法制化し保障することが大変重要です。06年に採択された国連の障がい者権利条約には「手話は言語」と明記されており、日本もやっと14年1月に条約を批准しました。手話通訳養成・派遣など社会的に認められてきていますが、活用や認識を十分なものとするために自治体での意見書の提出は意義のあるものと考えます。

■「集团的自衛権の行使を容認する憲法解釈変更」に反対する意見書

賛成の討論をしましたが、可否同数で議長により否決されました。



中央が講師金子匡良さん、右隣が狛江ネット政策委員山本あき子と市議会議員吉野よしこ

9月24、25、26日の3日間をかけて2013年度決算審議を行いました。◇臨時財政対策債は将来世代への負担の軽減を図り、財政秩序を確立するために、抑制的に、必須事業にのみ発行したことは英断で評価します。◇子育て環境の充実に関しては家庭福祉員が現在5人に増えたことは成果です。意見聴取や協議の場を設け、財政面も含めた支援の充実を要望しました。またプレーパークの常設に向けての前進や食缶方式によるあたたかい中学校給食の環境整備は高く評価しました。◇子どもの側に立った楽しい学校、分かりやすい授業の推進のためには視覚的提示、学習内容のスモールステップ化、具体的な指示など等しく育ちやすい環境をつくるというユニバーサルデザインの学級運営と授業をすべての教員が理解し実施できるよう提案しました。フリースクールを含む多様な学びという広い視点に立った教育の保障についても教育委員会での議論が必要なことを指摘しました。◇障がい者の就労、社会になじみにくい若者の雇用は依然進んでいません。小規模多機能型居宅介護の開所が遅れ残念ですが、身近な地域に拡充するよう要望しました。避難所運営協議会の設置や災害防災協定締結が進んだことは高く評価できます。◇市民参加と情報提供・公開に関して公平性の担保や参加した市民の納得度を高める工夫を要望し認定しました。

三ヶ月に挑戦します 吉野よしこ

議会や市政について何も知らなかった私を議会に送り出してくれた7年が経ちました。「市民の声を市政に届ける」という役割は担ってみると奥が深く、戸惑いや悩みを抱えながら、一歩ずつでも前に進めたらと思う毎日でした。

議会活動の中で、地域政党である生活者ネットワークが希少で貴重な存在であることも実感しました。議員を職業化・特権化しないことを明言し、議員を市民の代理人として位置づけ、市民と共に活動し、次の市民にバトンを渡すローテーションのしくみは生活者ネットワークの醍醐味であり、存在意義だと思います。より多くの市民に政治に関心を持ってもらう、主権者市民になってもらうために、議員だけに任せない、議員だけが抱え込まない「市民が主体」を具現化し、実行力を持たせるとも賢い方法です。

世界に類を見ない少子超高齢社会が猛スピードで進む日本。国の政治家が押し通す政策は国民の生活実態を全く無視したものです。市民の生活は多様化し、また格差が顕在化しています。一番身近な自治体が知恵をしばって「どの市民も一人にさせない」多様な政策の実現を繰り返す必要があると云います。「政治は生活を豊かにする道具」と云えるよう、特に未来を引き受けさせられる子ども、若者が希望を持てる政策提案とその実現をめざします。

▼子ども・若者に多様な支援の展開と充実を求める

不登校や学校が苦手な子どもを持つ親の会のメンバーを中心に「政策ゼミ」を開催し、調布市の青少年の居場所CAPS(西調布)とキートス(つつじヶ丘)の見学、ワークショップ、討議を行い提案をまとめ質問しました。

■不登校対策として特に中学校での支援のあり方と見直しの必要

小学校と中学校の連携と交流深めること、中学校での生活や学習が予測できるように1日の流れを体験するなどのていねいな子どもの側に立った配慮を要望し、検討するとの答弁を得ました。

また民間のフリースクールや市立高尾山学園などで教師の研修を要望しました。

今後はさらにユニバーサルデザインの学級運営と授業を通常学級において実施し、日野市の教員で作った特別支援教育スタンダードをテキストとして活用するよう求めました。

■狛江市の青少年の居場所の拡充と子どもの貧困の是正策を

バンド演奏のできる防音設備のある施設を周知し、使いやすくすること、夜間の児童館の開所、閉所となる根川学童を中高生センターに転用することなどを提案しました。

さらに生きづらさを抱える若者や仕事を探す若者などへの社会参加や就労に対する多面的な支援に全庁をあげて取り組むことを要望しました。

▼住み慣れた地域で暮らしているくみきくよう

今年4月から開始したワンストップの総合相談にはどんな相談があり、どう連携、支援しているのでしょうか。市民への周知と市側の支援体制づくりが必要です。

また、将来の在宅医療の必要量を試算し、医療と介護の恒常的な組織的連携が欠けている狛江市の状況を抜本的に解決すべきです。地域包括ケアシステムを構築するためには地域資源調査が必要と指摘し、実施するとの答弁でした。すでにあるフォーマル、インフォーマルな多様な居場所を市が把握して市民へ周知することや、居場所活動を継続するための支援を要望しました。「シルバー交番」を見守りの役割だけでなく地域包括ケアのモデルケースにしていこうと、空き店舗や空き家を活用し地域の拠点にすることを提案しました。実態把握を検討するとの答弁でした。

▼市民参加で透明性と納得度の高いまちづくりを！

前市政での市民活動支援センターを含む複合施設を駅前三角地に建設する計画は市民の合意を得られず頓挫したままで、現市政では白紙撤回をしました。新たに立ち上げた検討委員会は市民との信頼関係を築きながら活用方針を策定することを目的に無作為抽出も含め10人中8人が市民委員ということです。さらに多くの市民の声を反映するために市民アンケートを活用したとの答弁でした。今後は「市民の意見を聴く会」開催、活用方針案を作成し、パブコメ、市民説明会を実施し、今年度中に策定を目指すとのことです。また、新たな外部評価のあり方について質しました。委員長を市民委員から選出し、評価対象を施策中心から事務事業中心にして提言内容に具体性を持たせ、次の予算編成に活かせるスケジュールで提出、市民によりわかりやすい情報提供をすることで、実効性のある方法に変更したとの答弁であり、今後の効果に期待したいと思います。



青少年の居場所キートスにて
主宰している白旗眞生さんと
市議会議員吉野よしこ